Mラボ課題解決ラボ2019発表会

地域企業と大学生のマッチングラボラトリー　M labo　エムラボ

県内の中小企業が抱える経営課題について、大学生がゼミ単位で調査・研究し、解決策を提案する「Mラボ課題解決ラボ2019発表会」が10月26日、神戸市内で開かれた。今回の参加企業は県内の10社、参加ゼミは県内外の10大学20ゼミ。グランプリには、乳製品製造の六甲バターに対し、孤食の子どもに親からメッセージが伝えられる機能を持たせたチーズ商品の開発を提案した甲南大学の西村ゼミが選ばれた。

光る柔軟性 企業に提案

企業のさまざまな課題の解決策を探り、工夫を凝らして提案する学生たち＝神戸市中央区、神戸ハーバーランドスペースシアター

甲南大 西村ゼミ グランプリ

10大学20ゼミ、5月始動

「課題解決ラボ」は、神戸新聞社、兵庫県、兵庫県中小企業団体中央会が県内の企業と大学生の就職マッチングを目指して取り組んでいる「Mラボ」の中核事業で、今年で7回目。学生は5月に担当企業と顔合わせし、各企業が直面している課題を抽出したうえで、調査・研究を開始。ゼミが持つ専門的なアプローチと柔軟な発想で解決策を探ってきた。8月に行われた中間発表会で対象企業や有識者から得たアドバイスをもとにアイデアにさらに磨きをかけ、より実践的な提案として練り上げた。

この日行われた発表会では、各チームが10分の持ち時間でプレゼンテーションを実施。7人の審査員が、情報収集力、論理性、プレゼン力、独自性、実現可能性の五つの基準で評価した。この結果、グランプリには甲南大学・西村ゼミ（六甲バター）、準グランプリに関西学院大学・西本ゼミ（三晃商事）、3位に甲南女子大学・佐伯ゼミ（キッザニア甲子園）、審査員特別賞に神戸学院大学・島永ゼミ（日本テクノロジーソリューション）が選ばれた。

審査委員長を務めた神戸大学大学院経営学研究科の南知恵子教授は「グランプリは、足で稼いだ情報収集力に秀で、提案内容も魅力的でそこに至る論理の筋道も明確だった。準グランプリは、他の会社もマッチングして巻き込むなど実現可能性に向けて努力し、現実に課題解決につながる道を示してくれた。3位は、子どもの生きる力という難しいテーマに対して真摯に取り組み、事業者では考えつきにくい発想を提示した。また審査員特別賞は、学生のなじみのないBtoB（企業間取引）の商品をどう売るかを考え、今のトレンドを踏まえた新鮮な提案が魅力的だった」と講評を述べた。

企業 × ゼミ　マッチング一覧

日本テクノロジーソリューション	立命館大学経営学部・西岡ゼミ 神戸学院大学経営学部・島永ゼミ
六甲バター	流通科学大学商学部・田中ゼミ 甲南大学経営学部・西村ゼミ
ジィ・アンド・ジィ	甲南大学経営学部・奥野ゼミ 関西大学商学部・千葉ゼミ
吉田ピーナツ食品	神戸学院大学経済学部・林ゼミ 関西大学商学部・荒木ゼミ
スイコー	兵庫県立大学経営学部・山口ゼミ 武庫川女子大学生活環境学部・赤岡ゼミ
六甲山観光	流通科学大学人間社会学部・辻本ゼミ 関西学院大学総合政策学部・安ゼミ
マルヤナギ小倉屋	関西大学商学部・西岡ゼミ 甲南大学経営学部・藤田ゼミ
キッザニア甲子園	名古屋学院大学商学部・濱ゼミ 甲南女子大学人間科学部・佐伯ゼミ
デジアラホールディングス	立命館大学経営学部・金ゼミ 関西学院大学総合政策学部・古川ゼミ
三晃商事	武庫川女子大学生活環境学部・平井ゼミ 関西学院大学商学部・西本ゼミ

❑審査委員長
南　知恵子　神戸大学大学院経営学研究科教授

学生たちのプレゼンを聞く審査委員ら

❑審査委員
清水　信年　流通科学大学商学部教授
小谷健太郎　株式会社日本政策金融公庫企画管理本部広報部報道課長
深田　昌則　パナソニック株式会社、アプライアンス社、Game Changer Catapult代表
藤原　岳史　株式会社ＮＯＴＥ代表取締役
森村　文一　神戸大学大学院経営学研究科准教授（Mラボ課題解決ラボ実行委員）
吉住　裕子　有限会社未来教育設計代表（Mラボ課題解決ラボ実行委員）
＝敬称略＝

グランプリ

甲南大学経営学部西村ゼミ × 六甲バター株式会社

動画メッセージを商品に

テーマ　おいしいは誰かと一緒に

QBBのブランディングにつなげ、チーズ商品の消費量拡大を図るための新商品を提案する。まず食をめぐる課題の中で私たちは子どもの孤食に着目した。

現状を知るべく、孤食状況にある子どもたちのための場である全国の子ども食堂203カ所の運営者と、小学生の子どもがいる親42人を電話などで調査したところ、親子のつながりが弱い現状が浮かび上がった。そこで商品のターゲットは子どもと過ごす時間がなくつながりが弱い小学生の親とした。

商品名は「あなたに想いをはい！チーズ」。給食用の商品で親子ともになじみ深い既存商品を活用。子ども1人での夕食時に商品を添えておき、商品に付けたQRコードにスマホをかざすと親のメッセージ動画を受け取れ、スマホを持たない子には親が直接メッセージを書き込めるようにした。これにより親子がつながっていられる時間が増える。アプリを通じてメッセージ動画を再生するとポイントが加算され、たまったポイントでQBBプロセスチーズパークに招待することでブランディングにもつなげることができる。

この商品を小学生の子を持つ親に購入してみたいか聞いてみたところ74%が「購入してみたい」と回答した。ターゲット以外の層からの購入も見込める。

「孤食」結び付ける発想に驚き

六甲バター株式会社
代表取締役副社長
塚本　浩康氏

給食用に販売している「ポコット」という地味ながら子どもたちにとっては身近な商品に光を当て、そこに「孤食」という社会課題を結び付けるという発想に驚かされた。QRコードを活用して動画を埋め込むという手法も若い世代だからこそのアイデア。いただいたいくつかのヒントを今後の商品開発に生かしていきたい。

団結力 プレゼンで発揮

ゼミプロジェクトリーダー・中田 息吹さん（３回生）

孤食というテーマを掘り下げるため、全国の子ども食堂にヒアリングし、実際に子どもを持つ四十数組の親子を訪ねて情報収集し、当事者の声を拾った。その結果をふまえ、親子のつながりをどうつくるかというポイントに絞って商品化のアイデアを練ることができた。連日16人のゼミ生で議論し高まった団結力をプレゼンで生かすことができた。

準グランプリ

関西学院大学商学部西本ゼミ × 有限会社三晃商事

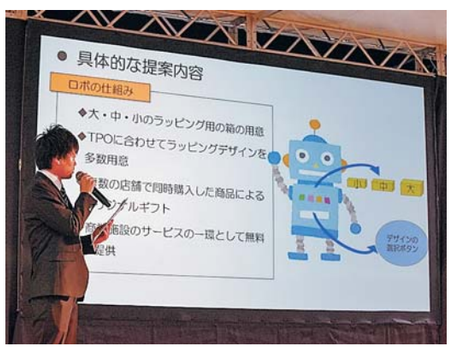
リノベにパートナー企業

テーマ　地域貢献に結びつく旅館のリ・デザイン

空き家だった古民家をリノベーションし、赤穂市加里屋地区に2019年5月にオープンした「加里屋旅館Q」。吉井社長からは「地域と人をつなぐ場にしたい」という思いを聞くことができた。ただ赤穂には観光客が少ない。そこで他の空き家も一気にリノベーションする「赤穂の街リノベーション」を提案する。リノベーションのパートナー企業を探し当て、G-FLAT（神戸市中央区）とマッチング。行政からの支援を引き出し、多くの事業者を巻き込むにはさらに強力なパートナーが必要と考えていたところ、社会課題の解決に取り組む事業部門を持つ、無印良品を展開する良品計画（東京都）から賛同を得ることができた。今後、住民の理解、行政の支援を得ながら加里屋地区の一体整備に継続的に取り組んでいきたい。

特別賞

神戸学院大学経営学部島永ゼミ × 日本テクノロジーソリューション株式会社



ギフト市場に着目

テーマ　人と人をつなぐラッピングロボット

脱プラスチックが進むと、主力商品であるシュリンク包装機械の対象であるペットボトルの減少が予想されるため新たな市場開発が課題となっている。そこでBtoC（消費者向け取引）市場、なかでもギフト市場に着目した。消費者ニーズを把握すべく20～40代の男女約100人にアンケートをとったところ、自分のセンスや個性をアピールできるラッピングにしたいという潜在的なニーズを発見できた。そこでラッピングロボを提案する。いくつかの店舗の商品を自分で選んで、大、中、小のギフトボックスから選べるようにして詰め合わせ、包装紙も複数から選んでラッピングできるようにする。ショッピングモールのインフォメーションに置いて無料で使えるようにすることでギフト市場を改革できる。

３位

甲南女子大学人間科学部佐伯ゼミ × キッザニア甲子園

体験の広がり、保護者組織に着目

テーマ　保護者と共に子どもの「生きる力」を育成するキッザニア甲子園

子どもの「生きる力」の育成が社会から求められている。キッザニアでの体験価値を「生きる力」に結びつけるには保護者の役割が欠かせない。体験を家庭で共有していくには「施設内での職業体験による気づきや学びを、家庭につないでいくための支援」「保護者同士がキッザニアを通じた生きる力の育成について学びあうコミュニティーづくり」が必要だと感じた。前者の仕組みとして、仕事内容や各スポンサーの意図を伝える動画や、子どもと一緒に体験の振り返りができるシートを用意。後者では、保護者それぞれの工夫や失敗例を情報交換し共有する場をつくる。保護者コミュニティーから新たな付加価値を創出できるだろうし、リピーター、新規顧客の獲得も期待できる。

発表会の様子（動画）は、Mラボホームページ（http://m-kobe.com/）でご覧いただけます。